



しろ、白、「白の世界」

雪、雪の白、ホワイト、「トミオカホワイト」

南魚沼にいと、「白」というキーワードには「雪」が浮かぶ。
グレーの空から湧いて出てくるやや大きめな雪。
耳を澄ませば「しんしん」と降りやまぬ細かな雪。
雪に覆われた高い山の稜線は、白い絵の具をマットに塗ったよう。
目に映る山肌は、樹木と雪が造り出す白と黒の世界。

こんな雪国の世界を描き続けた画家・・・富岡惣一郎。

新潟県高田市(上越市) 生まれの画家は「雪の白」にこだわった。
白い油絵の具の弱点は黄変やひび割れの起こりやすさ。
作品を生み出す側として、弱点を克服する白色油絵の具の開発に取り組み、
6年もの歳月をかけて、油絵具「トミオカホワイト」を誕生させた。
以前、NHKの「日曜美術館」で紹介されていたのを思い出す。
黒色のベースの上に「トミオカホワイト」の白色を重ね、
後にそれを削って表現する技法。
大きなキャンバスに塗りやすいように、
刀鍛冶に大きなペインティングナイフまで作らせた。

「トミオカホワイト美術館」には、
南魚沼が雪で覆われる冬に、ぜひ訪れてほしい。

美術館への道すがら目に入る、
南魚沼の雪景色を心に写し取りながら。
雪の中に立つ直線的な印象の美術館は、潔さを感じる。
入館してみると、奥行き 50 メートルはあろうかと思う長方形の展示室に、
大型の作品が何枚も展示されている。

ゆっくり、ゆっくり絵を鑑賞していくと、
目の前の絵と・・・、記憶の中の雪景色が・・・重なっていく。
雪に負けまいと流れを造る小川の姿。
川から顔を覗かせた石には雪の帽子。
葉っぱを落とした木々が黒色のシルエットとなる里山の山肌。
畔の高低が作り出す淡い光の影がおもしろい、どこまでも続く冬の田んぼ。
ふと見上げると白い空から淡い灰色に見える雪が降ってくる。
あ、これは八海山、ん、これは妙高山、そして富士山。

一見、抽象画的な要素もありながら・・・、
いやいやこれぞ雪国の自然の景色、原風景。

広い展示室、大きな作品はゆっくりじっくり、空気を味わいながら
滞在することにより印象深く刻まれる。

トミオカホワイト美術館が開館して 4 年目の 1994 年、
富岡惣一郎さんは 72 歳で生涯を閉じました。
画集の中に富岡さんの言葉がありました。

「画を難しく考えることはない。好きな画をみつけ、
自分なりに感じとる世界を静かに楽しめばよい。」

まさに、「自分なりに感じとる世界」を堪能できる美術館。
「トミオカホワイト美術館」ぜひ多くの人に訪れてもらいたい。

展示室を出て直進すると、雄大な八海山を眺められる。
ソファが置かれていて、ここが一等席。
残雪、新緑、紅葉、冬枯れ、そして雪景色。
四季折々の八海山を愛でることができる絶景ポイント。

いろいろなアートグッズも販売されている。
クリアファイルや絵葉書等、画集やアルミ版の版画なども。
そばにおいて、楽しんではいかがでしょうか。

「トミオカホワイト美術館」

■ アクセス

関越自動車道六日町 I.C から 15 分

大和スマート I.C から 18 分

T949-7124

新潟県南魚沼市上薬師堂 142

ここに記したものは、

トミオカホワイトの世界

「トミオカホワイト美術館」展示作品についての私なりの解釈です。

みなさんも「自分なりに感じとる世界」を堪能してみませんか。

※参考文献: 画集「トミオカホワイトの世界」